

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400598		
法人名	株式会社 エステートホーム		
事業所名	サロン・ド・フレール羽島		
所在地	〒501-6244 岐阜県羽島市竹鼻町丸の内9丁目53番地		
自己評価作成日	平成25年6月1日	評価結果市町村受理日	平成25年9月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kajokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2170400598-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kajokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2170400598-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	〒503-0864 岐阜県大垣市南類町5丁目22-1 モナーク安井307		
訪問調査日	平成25年7月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の面会時や行事など ご家族との交流を意識しコミュニケーションを大切にしています。ご家族にいつでも気軽に来て頂ける様、家庭的な雰囲気作りにも力を入れています。年に2~3回ほど、ご家族を招いての食事会などの機会を作り ゆっくりと交流する機会を大切にしています。参加家族も徐々に増えており ご家族、ご利用者、職員、ご家族同士の交流も深まっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、山々や田園風景が見える自然豊かな環境にあり、一方、近くにスーパー、コンビニ、喫茶、市の公共施設や消防署等があり、生活に便利で安心な場所に立地している。ケア理念の「響きあい」は、利用者・家族・又、出会う人々の心が響きあうよう、日々支援の中で取り組んでいる。共に支える家族を大切にし、気軽に立ち寄れる事業所となっている。開設以来、地元へ溶け込む努力を続け、自治会を始め子ども110番の拠点となる等、地域との相互交流に努めている。職員の多くは地元住民であり、チームワークの良さが支援に生きている。法人全体で会議や研修を行い、培ってきた経験や技術を学び合い、各事業所のサービス向上に活かされている。事業所では看取り経験はないが、利用者・家族が望み、条件が整えば、看取り支援も行ないたいと考えている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	響きあいの理念に沿ったケアに努め実践出来るよう会議での話し合いや申し送り、日勤業務表に書き込む等し、日々意識出来るよう努めている	法人の理念推進委員会に事業所より代表者が参加し、現場に持ち帰り、どの様に理念を推進するか学び合っている。言葉に出来ない利用者もあるが、職員は表情やしぐさから相手の気持ちをくみ取り、日々心が響き合える関係を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し集会にも参加している 買い物や散歩など外出を心がけ、地域との繋がりが途切れないよう努めている 民生委員の方には会議にも参加して頂いている。また子供110番の窓口にもなっている	事業所は、開設以来地域に溶け込む努力を続け、今では自治会の総会に参加したり、子供会の廃品回収に協力する等、地域と事業所との相互交流が円滑になされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外出時などに認知症の方への理解や支援方法を示している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、ご家族の参加もあり気軽に話が出来ると雰囲気でも会議が進められている 年に数回食事を開き食事会後の運営推進会議を開くことで新たな参加人数も増えつつある	会議には、地域包括支援センター、民生委員、家族に加えて利用者やボランティアも参加し、会議の充実を図っている。利用者と一緒にの食事会に全家族を招き、その後会議を開催する事もあり、多くの方が参加出来る様工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者、エリアマネージャーを中心に日頃から連携を取り、協力関係を築けるよう努めている	毎月空室情報を行政にファックスし、他の書類は手渡している。民生委員の研修に当事業所の見学が取り入れられるなど、地域で役立つ事があれば協力し、行政との協力関係を築けるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議等で研修を行い学ぶ機会を持ち身体拘束にあたらぬか具体的に検討し介護方針を決定している。医師の意見にて身体拘束を行う場合も経過記録をとり定期的な検討会を開き身体拘束のないケアを目指している	法人の研修教育委員会に代表者が参加し、そこで学んだ事を事業所のユニット会議にて再度学び合っている。昨年はやむを得ず4点柵の方が1名あったが、医師・家族と連携し、状態が改善され拘束がなくなった。出来るだけ精神的苦痛を与えない様に心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議等で研修を行っている。特に口調が強くなってしまわないよう意識している。また日々の業務でも職員同士が注意し合える関係である		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修を行っている。管理者、エリアマネージャーを中心に必要であれば支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の面談にてご利用者、ご家族に十分な説明を行い理解、納得をして頂いたうえで契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱、苦情窓口の設置をしている 面会時などの会話の中から意見を聞き出来る範囲で支援できるよう努めている。	職員は普段の会話の中や面会時など、利用者や家族が気軽に意見を言えるよう常に心がけている。出された意見・要望はその日の支援にすぐ活かしたり、家族と職員が協力して可能な範囲で実現できるよう支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議、日々の会話や一対一のヒヤリングの実施などで話をする機会を設け、反映させている。	職員の意見や提案は、毎日の申し送りノートや毎月のユニット会議で出し、皆で検討し運営に反映している。又、本社では施設長会議や、年に数回、全職員と1対1のヒヤリングがあり、皆が意見を言える場が設けられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人ひとりとのコミュニケーションを大切にし職員の能力に応じた係りなどを作り、責任、やりがいのある職場を目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内では、教育・研修委員会、理念・介護推進委員会を設置している。また社内外の研修案内を出し参加する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	G・H協議会の委員会や研修に参加。今年度は、感動事例発表会を文化センターで行いひとつの目標に向かい他事業者と協力し行うことが出来、交流も深めることが出来た。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談でご利用者やご家族から情報収集している。また入居後は職員の小さな気づき、発見など皆で共有し安心して生活できるよう信頼関係づくりを意識している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面談にて困っていること、不安に思っていることを伺い希望に沿えるよう情報収集に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の面談で得た情報から、必要としている支援を専門職と話し合い見極めている。課題などもふまえて協議を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を意識し共に行うことを心がけている。日々の暮らしや地域の情報、昔ながらの様式など教えて頂く事もあり支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、電話連絡時など日々の様子を報告している。ご家族を招いての行事を取り入れご家族と過ごす時間を大切にし、共にご利用者を支えられる様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に参加し、馴染みの方に会いお話しすることがある。また近所の方が訪ねてみえた時にはゆっくりとお茶を飲みながら過ごして頂いている。	入居時、バックグラウンドアセスメント(これまでの情報)を家族にも記入してもらっている。地元の藤まつりや山車を見に出掛けたり、友人が事業所に来られる時等、関係が途切れないよう支援している。通い慣れた美容院に行く方もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の人間関係が円滑にいくよう気を配り、共通の話題で話ができるよう時には職員が間に入り関わり合い、支え合えるような場を意識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても必要に応じ、いつでも相談を受け入れられるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中から希望や意向を把握できるよう努めている。時には、ご家族からの話を伺い把握に努めている。	入居前アセスメントや面接記録等、以前の情報から暮らし方の把握に努め、その日の希望は日々の会話から読み取っている。会話が困難な方は、しぐさや行動から把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族に協力して頂き、今までの暮らしぶりや生活環境の把握に努め、今までの生活環境をできるだけ取り入れた生活に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の情報やアセスメントから全職員が現状を把握し、ご利用者一人ひとりの状況に応じ、ゆったりと一日を過ごして頂くよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人のニーズが何であるか意識し日々のケアをしている。会議での検討会や申し送りの中から必要とされる支援を情報共有し、チームで利用者を支えられる様、意識している。	「なんでもメモ」で利用者の情報を細やかにとり情報共有している。ケアについては利用者全員について2週間に1回、会議で検討され積極的な取り組みがなされている。家族には面会や電話で相談、意見をもらう形で計画に参加してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや介護記録、連絡ノートを活用し全職員が情報を共有している。会議での検討会などでも職員の小さな気づきを発表する機会を作り実践やケアの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じてご本人やご家族の状況に合わせた対応をしている。その時に出来る最大限の努力をしニーズに沿えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の意向を取り入れ、買い物や公園への散歩など地元へ出かけている。ボランティアの受け入れにより地域との関わりを大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医と施設主治医を選択できる。現在入居前からのかかりつけ医の往診を受けている方もいる。緊急時や他の医療機関を受診している方もいる。	希望するかかりつけ医を選択することができる。受診は職員ではなく家族が同行することを原則としているが、受診結果を家族から事業所に伝えることで医療の連携体制を取っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの連携により、24時間のオンコール体制を確保している。週に一度の訪問を受け、日常的な健康管理やアドバイスを頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は安心して治療して頂けるよう、こまめに面会に行くよう心掛けている。面会時には看護師との情報交換や情報収集に努め、関係づくりを意識している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、主治医やご家族と相談しながら状態の変化に合わせ、その都度話し合いをしている。出来る限り施設で暮らせるよう主治医、ご家族、職員と連携を取り支援を行っている。	これまで見取りの経験はないが、契約前から事業所の重度化や終末期についての方針やできることできないことを説明して同意を得ている。利用中も利用者の状態によって医師と家族が話し合える場を作って終末期のケアの体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルに沿って対応している。定期的に会議で確認し、変更もその都度確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回定期的に消防訓練を実施し、風水害のマニュアルも作成している。会議の場を使い全職員が対応出来る様、研修も行っている。運営推進会議でも話し合いをし地域への協力も依頼している。	消防署が来ての総合訓練は年2回、夜間の実際の職員人数でのより実践的な部分訓練を年2回実施している。運営推進会議のメンバーも参加してもらうなど、地域の方の協力も得て行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のご利用者の性格を理解しそれぞれに合わせた声掛けをしている。入浴や排泄時には特に羞恥心に配慮したケアを心がけている。	ケアすることに慣れてくると利用者の尊厳に配慮した対応を忘れがちになることに注意している。利用者一人ひとりに合わせた言葉使いを大切に、さりげないトイレ誘導や浴室ではタオル使用にてプライバシー配慮を実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中からコミュニケーションを取り思いや希望を聞きケアの中で選択、自己決定できる場面を意識している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の生活習慣を把握しできる限り希望を取り入れている。その日の体調や発言などからペースに合わせた対応をしている。希望に沿えるよう業務の変更や調整を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度床屋の来所がある。希望により美容院でのカットをされる方もいる。女性の方は、行事の際マニキュアやお化粧を喜んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じられるよう旬の食材を使うよう心掛けています。一緒に盛り付けや食器拭きなどをしたり献立の相談をしています。また誕生日にはご本人の希望した献立の提供をしています。	誕生日の献立リクエストや、時折地域のレストランでの外出に出かける。誕生日の食事会には家族にも声をかけ、利用者と一緒に楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日分の栄養バランスを考え、献立を作成している。個々のご利用者に合わせて食事形態(キザミ・ペースト)を提供している。水分摂取量の少ない方には、時間をずらし補給して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の状態に応じブラッシングや口腔内の拭き取りを行っている。歯科医の往診もあり、治療やアドバイスを頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握し出来る限りトイレで排泄できるよう努めている。さり気ない声かけや席を立たれたタイミングで誘導したりしている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の自立を考えた支援をしている。様子を見て立位が取れる方はトイレ誘導することを実践している。この結果トイレ排泄が可能になった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご飯に麦やかんてんを混ぜ炊いている。水分補給、運動に努め場合によっては主治医と相談し薬の調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全に配慮し個々の希望に合わせて入浴している。拒否のある方は無理せず中止したり、シャワー浴や清拭で対応している。	利用者一人ひとりの希望を大事にしながら、入浴を楽しんでもらっている。入浴を拒否する方に対しては無理強いせず、シャワーや体を拭くなどしてその時の状況に寄り添う入浴の形で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせ対応している。室温、布団、灯り、雑音など環境面にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現場に処方箋の配置。処方変更があった場合には、申し送りや生活記録に記入し情報の共有に努めている。会議の場での研修も実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意なことを活かしながら、ご利用者に合った役割、楽しみを日々の生活の中から発見できるよう努めている。ご家族との行事を企画し、ご家族と過ごす時間を大切にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の気候やご利用者の体調をみて花見や季節の行事に出かけ、地域との交流を意識し支援している。また面会者と外出や自宅へ外泊する方もいる。	道路を挟んだすぐ前にあるコンビニ、建物横の花畑、駐車場周辺、ホームのテラスなど近くに出ることが中心であるが、時々利用者の体調等を見ながら車で公園「市民の森」に出かけたり、家族や面会者との外出も積極的に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、個々でお金を持っている方はいないが買い物へ行った際は、お金の支払いをされる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、電話を利用できるよう支援している。ご家族から手紙や年賀状が届くこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる飾りつけをリビング、玄関にしている。ボランティア来所時の写真や地元祭りの、行事のポスターを掲示している。食事時には、テレビを消し静かな音楽を流している。	広い廊下に続くシンプルな居間であるが、懐かしいミシンが置いてあったり笑顔があふれる行事の写真が貼られるなど、暖かい空間となっている。利用者が寛げるスペースを廊下、トイレ付近、居間内などいくつも設け、各々が寛げる場所として利用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やテレビ前にソファを設置し、自由に利用できるようにしている。 リビングの席は、決まっておろ個々の居場所を意識した環境に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	いままで家で利用していた家具や馴染みの物を持って来て頂き、ご本人、ご家族と相談しながら居心地よい居室づくりの工夫に努めている。ご家族との写真を居室に貼ったりもしている。	利用者、家族と相談して馴染みのものを意識して検討している。椅子やチェスト、すわり机、TV、写真など利用者が納得したものが配置されている。夜間使用のポータブルトイレには柄布を掛け、臭いもなく清潔にも配慮された居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来ない部分をさり気なくサポートしている。トイレや洗面所に看板を設置したり、居室の入り口に自分の部屋だと分かるような名札や写真で目印を付け工夫している。		